

	重点目標	手 段	評 価				現 状	改善策等	学校運営協議会委員の意見	総合 評価
			上段：7月実施 下段：12月実施	児童生徒	保護者	職員				
1	確かな学力を身に付けた子どもの育成	(1) キャリア教育を意識した教育実践	3.2 3.4	3.1 3.1	2.9 3.1	7月 12月	(共通) ○ 義務教育9年間を見据えたキャリア教育の推進を図り、小中一貫校ならではの取組をしている。 (小学部) ● 昨年度はコロナ過の影響で、例年取り組んでいる田植え→稲刈り→餅つきの活動が実施できなかったが、今年度は、地域の方々の協力を得ながら実施することができ、子ども達も貴重な体験をすることができた。 (中学部) ● 本年度はコロナ過の影響で、実施できなかった「職場体験学習」や市の事業(職業人講話、地元企業からの学び)を実施することができ、生徒達も貴重な体験をすることができた。	(共通) ・ 中学校卒業時の進路情報等を小中職員で共有し、小学校段階から義務教育終了後の進路を意識した指導を実施するなどの小中一貫校ならではの取組を積極的に行っていききたい。 ・ キャリアパスポートを活用し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、児童生徒自らが主体的にキャリアプランニングできるようにする。 ・ 定期的に教育相談や保護者を交えての三者面談を実施し、安心して学校生活が過ごせるように環境整備(人的環境)を進めると共に、将来の生き方について主体的に考える場を設定する。	・ 「キャリア教育」という言葉が難しい。どのようなものか、イメージが難しい。	3
		(2) 粘り強く学習に取り組む子どもの育成に向けた指導の充実	3.2 3.3	3.1 2.7	3.0 3.1		(共通) ● 保護者の評価が、7月の3.1から2.7と低下している。教員、児童生徒の評価は逆に高くなっていることから、学校内での学力向上の為の取り組みが保護者にきちんと伝えられていないことが原因と考えられる。	(共通) ・ これまで同様、学習課題の提出等家庭との連携を図りながら、また小中学部で情報を共有しながら、根気強く目標達成のため指導を行っていく。 ・ 学校での取り組みを積極的に学級通信等で保護者に知らせ信頼を得るように努める。	・ どのクラスの授業も先生方が熱心に指導されており感心した。ただ、地域の子どもたちはこれが当たり前だと思っているのではない。高校に進学してからが心配だ。	3
		(3) 9年間をとおした計画的な外国語活動・外国語指導の充実	3.4 3.5	3.3 3.3	3.1 3.3		(共通) ○ 小中一貫校の良さを生かし、中学部の職員が小学部高学年に「乗入授業」を行っている。また、小学部に英語指導が週2回訪問と、ALTが月2回訪問して頂き、英語力の向上に努めた。	(共通) ・ 小学部に導入されている「外国語活動サポーター」や小中の授業をサポートしてくれる「ALT」との連携への強化を図り、充実した外国語活動を今後も展開していききたい。	特になし	3
		(4) 言語活動を意識した指導の充実(読書活動、作文発表会、新聞への積極的な投稿等)	3.1 3.2	3.2 3.3	2.8 3.1		(小学部) ○ 俳句や短歌を新聞や作品募集等に積極的に投稿している。また、絵画(ポスター)では、宮崎県レベルで入選している。 (中学部) ○ 昨年度から毎週1回木曜日に延岡市の読書推進員が来校され、図書の整備や購入の手続き等の業務を手伝って頂いている。	(小学部) ・ 作品が新聞に掲載されることで、子どもたちに自信と誇りを持たせていきたい。 (中学部) ・ くろいわ祭では、例年通りにポスターなどの作品を展示することができた。次年度は地域の方を招くことができるようにコロナ禍の終息を願いたい。	・ 美術の授業を参観し、専門の教師が指導されているのでレベルが高い。毎年くろいわ祭で作品を見るのが楽しみである。	3
		(5) 個に応じた指導の充実(家庭教育・個別支援)	3.4 3.5	3.3 3.2	3.2 3.4		(共通) ● 多くの児童生徒が「学力」を身に付けたいと思う一方で、「自ら進んで勉強に取り組んでいる」という評価が低い児童生徒も多い。	(共通) ・ 保護者との連携を図り、家庭での時間の使い方(学習時間の確保)や学習に集中できる環境づくり等、個に応じた指導を行っていききたい。 また、キャリア教育の充実を図り、今の学びが将来の夢実現のために重要であることを、教師、保護者、地域が一体となって様々な行事を通して児童生徒に理解させていきたい。	・ 各クラス数名の人数で、一人一人に丁寧な授業ができ、大変恵まれている。この環境を無駄にはいけない。	3

	重点目標	手 段	評 価				現 状 (○取組状況 / ●課題)	改善策等	学校運営協議会委員の意見	総合 評価
			児童 生徒	保護者	職員					
2	人間性豊かな子どもの育成	(1) 人権教育の充実	3.3 3.6	2.9 3.2	3.0 3.1		【共通】 ○ 人権週間を活用した人権教育のみならず、常日頃から人権感覚をもった人づくりを進めているが、現状では、相手を傷つけるような文をインターネット等でアップしている生徒もいる。	【共通】 ・ 児童生徒の人権意識を高めるために、本校職員の人権意識をより高める必要がある。授業中や普段の学校生活の中で、教師が児童生徒の名前を呼ぶ際に、呼び捨てではなく、「くん」、「さん」をしっかりとつけるよう意識していく。 小学生のあいさつや返事は、高学年を中心にようになってきているが、地域でのあいさつはさらに指導が必要である。指導に当たっては、学校・家庭・地域が連携して取り組むようにしたい。	・ 放課後子ども教室の際にできるだけ黒岩の中学生とも話す、とても素直で、好感がもてる。他の地域の人と話す時に自信をもって話すことができる。中学生になって成長した姿が見える。	3
		(2) 家庭と連携した基本的な生活習慣の育成（あいさつ・返事・清掃・時を守る指導）	3.3 3.4	3.2 3.1	3.0 3.2		【共通】 ○ 昨年度はコロナ禍で実施できなかった学校保健委員会を実施し、「メディアコントロール（生活リズムの改善）」を取り上げ、家庭での時間の使い方や健康について考える機会を設定した。 ● 「大きな声であいさつできているか」の問いに対し、児童生徒（8割）、保護者（6割）、教職員（6割）と評価が分かれている。継続した指導の必要性を感じる。		・ 子育ての原点は親だと思う。親の躰が重要である。	3
		(3) 道徳の時間の充実	3.2 3.4	3.6 3.1	2.8 3.0		【共通】 ● 児童生徒、保護者、教職員の三者共に、「自分で考え、判断し、行動する力」を身に付けたい（身に付けさせたい）力としてあげている。また、保護者、教職員の評価では5割弱が、それらの力がいま一つ身に付いていないという結果が出ている。		・ 黒岩地区は昔から、挨拶ができる子ども達が多かった。これからも挨拶ができる子ども達を育てて頂きたい。	3

	重点目標	手 段	評 価				現 状 (○取組状況 / ●課題)	改善策等	学校運営協議会委員の意見	総合 評価
			児童 生徒	保護者	職員					
3	たくましい体の育成	(1) 運動の生活化・日常化（体育の時間、遊び、部活動、新体力テストの活用等）	3.2 3.3	3.0 2.9	2.9 3.1		（小学部） ● 教室で読書をして過ごす児童がみられることもあるが、昼休みや放課後子ども教室の時に、グラウンドや中庭・体育館で元気よく遊んでいる児童が多い。 （中学部） ○ 全生徒が卓球部に所属しており高い目標を持ち、熱心に活動に取り組んでいる。今年度は、コロナ禍の影響で積極的に練習試合を計画することができなかったが、練習内容の改善を図り、活動のレベルが向上してきている。	（小学部） ・ 「みんなで遊ぶ日」などを設定し、学級みんなで、または全校で遊ぶことを通して、体を動かす機会を増やしていきたい。 （中学部） ・ 体力テストの結果から、シャトルラン、上体起こし、反復横跳びが全国平均より劣っているため、通常の体育の授業において、準備運動の工夫を行い、全国平均を上回るようにしていきたい。 ・ 生徒が部活動に対し、自主的に取り組める環境整備の支援をすると同時に、人間形成の場として指導していきたい。	・ 例年5月に実施されている、体育祭が新型コロナウイルスの影響で延期になったのは残念だが、行事を通して小学生が成長している。	3
		(2) 危険予知・危機回避能力の育成（交通安全教室・避難訓練の充実）	3.9 3.8	3.4 3.4	3.5 3.7		（共通） ○ 毎月の安全点検や定期的な避難訓練（火災、地震、不審者等）で、児童生徒が安全な学校生活が送れるように努めている。 ○ 通学路が長期間工事になるので、地域の方々と協力して今以上に登下校の安全に注意をする必要がある。	（共通） ・ 避難訓練は、関係機関との連携強化を図り、効果的な訓練計画を立てるとともに、危険予測力及び危険対応力を身につけていきたい。	特になし	3
		(3) 保健・食に関する指導の充実（弁当の日、早寝・早起き・朝ごはん）	3.2 3.3	3.0 2.9	2.9 3.1		（共通） ○ 毎月、保健室だよりを発行し心身の健康に役立つ情報を児童生徒や保護者に提供し、啓発している。 ○ 今年度は「弁当の日」を設定できなかったが、毎日給食の時間に献立の食材に関する一口メモを放送委員会の児童が放送し、食育に対する意識の向上に努めた。	（共通） ・ 毎朝の健康観察、来室状況、生活アンケート、健康相談等で、児童生徒の健康状態を把握し、生活リズムが崩れないように、継続して指導していきたい。 ・ 積極的な保健指導を行い、感染症や熱中症の予防等に努めていきたい。	特になし	3

	重点目標	手 段	評 価				現 状	改善策等	学校運営協議会委員の意見	総合評価
			児童生徒	保護者	職員					
4	家庭・地域に信頼される学校づくり	(1) 教職員の資質の向上（校内研修、コンプライアンス）	2.9 3.3	3.5 3.2	3.4 3.6		（共通） ○ 毎月のコンプライアンス点検及び職員会や長期休業中で研修を行うことで、法令及び社会の良識等を遵守することへの意識の向上に努めている。 ○ 児童生徒に対して、教師からセクシャル・ハラスメント等を受けたことはないかアンケート調査を行い、現状の把握に努めた。	（共通） ・ 教育公務員としての自覚と責任のもと信頼される学校づくりのために、今後も様々な機会を通して資質向上に努めていきたい。 また、日頃から職員間のコミュニケーションを図り、風通しの良い明るい職場づくりに努めるとともに、本校から違反者等を出さない雰囲気作りに努めたい。	特になし	3
		(2) 学校から情報発信（学校便り、学級通信、ホームページ）	3.7 3.7	3.5 3.2	3.2 3.5		（共通） ○ 特認校制度のパンフレットを更新し、黒岩地区連絡協議会と連携し、今まで以上に黒岩小中学校を盛り上げる取り組みを行った。 ○ 学級通信や学校便りを定期的に発行するとともにホームページを随時更新し、学校の教育活動に理解を得られるように努力しているが、保護者の評価が少し低くなった。	（共通） ・ 今後も学校便りや学級通信、ホームページ等を通して、学校からの情報発信を積極的に行っていきたい。 ・ 学校評価（保護者のアンケート結果）及び学校関係者評価の結果を有効に活用していきたい。	・ 1学期に学校側から提案のあったパンフレットが立派に仕上がっている。河川清掃などの地域の活動時に広く紹介してはどうか。	3
		(3) 家庭、地域へのきめ細かな対応（相談活動、地域行事への参加）	3.4 3.5	3.4 3.2	3.2 3.5		（共通） ○ 学級連絡帳や参観日の懇談会、黒岩地区連絡協議会等から保護者や地域の方のご意見・ご要望などの情報を得ている。 ● 地域の行事に積極的に参加しているという意識の児童生徒は7割弱という状況である。 ○ 黒岩地区青少協の取り組みである河川清掃活動に沢山の児童生徒及び職員が参加した。	（共通） ・ 昨年度はコロナ禍で、河川清掃や秋祭り、歩こう会等の地域の行事がなかったが、今年度は、黒岩地区青少協と協力し、河川清掃や魚釣り大会に参加することができた。 ・ 学校に対する地域の声を大切にし、それに応える努力をするとともに、より開かれた学校づくりを目指したい。 ・ 常日頃からお世話になっている地域に対し、感謝の気持ちを持てる指導の必要性を感じる。	・ 黒岩地区青少年連絡協議会が主催する河川清掃や魚釣り等の行事を通して子どもたちの豊かな心を育てていきたい。黒岩地区の秋祭りも心待ちにしているが、新型コロナ終息が一番の課題である。	3

【学校運営協議会委員の皆さんが、これから子どもたちに身に付けて欲しい力】

- ・ 「挨拶ができる」子どもを育てて頂きたい。
- ・ 都会では味わえない、日本人が忘れかけてる心を育てて頂きたい。

【次年度の方向性についての校長所見】

・ 地域と共に歩むコミュニティースクールとしての役割とは何か、その役割をどのように果たしていくべきなのかに関してたくさんの示唆をいただいた。豊かな自然に囲まれた環境を活かし、小規模校の特色を前面に出して、「心豊かで、のびのびと、元気でたくましい」児童生徒の育成を目指したいと考える。そのために、学校運営協議会と黒岩地区連絡協議会（公民館長・区長・婦人会・民生員・青少協・体育協会会長等）とが連携し協働できる体制作りを行い、次世代を担う人材育成と持続可能な地域社会の実現に努めたい。